

## (2) 底魚漁場調査

当真、川崎

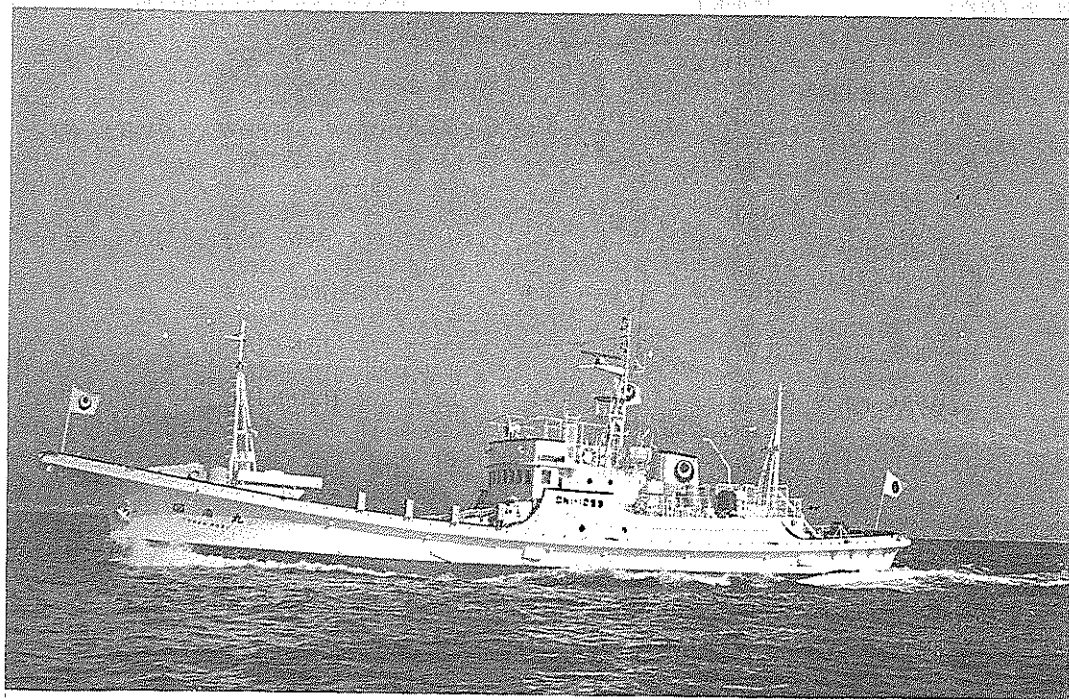
### 1 目的

底魚特にフェダイ類の漁場を開発せんとするものである。

### 2 調査の方法及び内容

回次	使用船舶	吨数、馬力	期 間	調 査 海 域	調 査 担 当 者
1次	くろしお	2144t 100ps	51年 4月20日~27日	渡名喜島沿岸	当 真
2次	函 南 丸	21609t 1,000ps	51年 8月25日~9月12日	南支那海	当真、川崎
3次	全 上	全 上	52年2.24~3.2 " 3.7~3.15	沖縄島沿近海	全 上

乗組員：函南丸（赤嶺正弘船長以下20名） くろしお（比嘉幸一船長以下7名）



SNo.1007 220吨型. 鋼製. 単螺旋. デイゼル推進. 漁業調査船

## 図 南 丸 主 要 目

船 主 沖 縄 県 船籍港 沖縄県糸満市

起 工 昭 和 4 9 年 9 月 2 5 日  
進 水 昭 和 4 9 年 1 2 月 1 4 日  
竣 工 昭 和 5 0 年 1 月 3 1 日

全長	42.25M	緊 船 機	住友機械製
登録長	35.00M	サイクロ	減速型 3.7KW 電動機及サイクロ
型幅	6.80M	揚 貨 機	明電製
型深	3.20M	Y-FIFH	3KW 電動機
総噸数	216.09T	送 信 機	日本無線製
純噸数	69.26T	(主)	NSD-1275 250W
船型	船主楼付一層甲板型. 船尾機関型	(補)	NSD-1128C 125W
資 格	第三種漁船	受 信 機	日本無線製
乗組員	26人	(主)	NRD-10 全波
魚艙容積(ベール)	59.28M <sup>3</sup>	(補)	NRD-10 全波
燃料油槽容積	126.34M <sup>3</sup>	レ ー ダ ー	日本無線製
清水槽容積	20.52M <sup>3</sup>	JMA-157GB	10吋 96漚
速力(最高)	12.90KT	魚群探知機	古野電機製
(航海)	11.00KT	FNV-1500	0~1500M可測
凍結能力	ブライン 5T/DAY	無線方位測定機	光電製作所製
主 機 関	新潟鉄工所製	KS-500	2台
6MG25BX	1000PS×680RPM	1台	漁 撈 装 置
補 機 関	ヤンマーディーゼル製	UPF (鰹釣機)	4台
6KFLL-T	185PS×1200RPM	2台	サンバー-MB300W
発 電 機	神鋼電機製	130KVA AC 225V	2台
冷 凍 機	長谷川鉄工製	R-22 15.84RT 22KW	各1台
R-22	9.1RT 22KW	各1台	操 舵 機
操 舵 機	川崎重工製	R-100G 堅型 2.2KW	1台
揚 錨 機	中谷鉄工製	ウォーム減速型 11KW 電動機	1台
ウォーム減速型	11KW 電動機	1台	
			ラインホラー
			泉井鉄工製
			2S-4C
			1台
			ベルトコンベア
			帝機工業製
			半固定式 1KW 固定式 1.5KW
			各1台
			SSB送受信機
			日本無線製
			NTD-176D 100W
			1台
			フアックス
			日本無線製
			JAX-27A
			1台
			オメガ装置
			日本無線製
			JLA-101K
			1台

株式会社 三 保 造 船 所 建 造

### 調査項目

漁場探索、漁獲試験(釣獲率、魚種組成)

マナ類の魚種別棲息水深の調査(垂直分布)

漁獲物測定、気象・海象調査

### 3 調査結果の概要

#### 第1次試験

慶良間諸島久場島西方の水深220~390mで2回操業し、釣獲率は最高3.60%最低は2.40%平均釣獲率は3.00%である。魚種組成はレンコダイ27尾(90%)エビスダイ3尾(10%)である。

渡名喜島東方では水深130~450mで3回操業、釣獲率は最高7.60%最低は1.00%平均釣獲率は4.73%を示し処によっては少々好漁も見られたが、全般的には余り良くない。魚種組成はレンコダイ34尾(47.88%)ハマダイ13尾(18.30%)ハナフェダイ12尾(16.90%)オオヒメ8尾(11.26%)カンパチ2尾(2.81%)サザナミダイ、アオダイ各1尾(1.40%)である。

渡名喜島南側では水深140~254mで2回操業し、釣獲率は最高5.66%最低は4.40%平均3.90%を示した。魚種組成はレンコダイ20尾(51.28%)オオヒメ14尾(35.89%)カンパチ・ハマダイ・キンメフェダイ・マハタヒメダイ、それぞれ1尾(2.56%)である。

渡名喜島南西側では水深124~270mで3回操業、釣獲率は最高10.60%最低5.20%平均でも7.93%を示し、今次調査海域では最も良い結果が得られた。中でも水深219~230m一帯(N26°-18'E 127°-04')には範囲は狭いが曾根がある模様である。魚種組成はレンコダイ36尾(30.25%)アオダイ35尾(29.41%)ヒメダイ20尾(16.80%)ハマダイ14尾(11.76%)キントキダイ8尾(6.72%)カンパチ・ホウセキハタ各2尾(1.68%)ハナフェダイ・タマガシラ各1尾(0.84%)である。

### 第2次試験(南支那海)

南支那海で3カ所の漁場を調査した。最初は東沙島の北西側にあるS. Vereker. bk 附近にて2回操業したが、潮流は同バンク上を中心に渦流状態の激流が南寄りに流去し、揚網の際大変困難を伴った。結局投網して漁具が着底するまでには深海域の方に流動しており、そのためか漁獲物を見るべきものがなかった。

2回目はN20°-21'E 115°-08.5'附近の水深200~280mで2回操業し、釣獲率は最高3.75%最低2.10%平均2.99%で凶漁であった。魚種組成はレンコダイ24尾(64.86%)が主となり、ハチジョウアカムツ8尾(21.62%)ハマダイ4尾(10.81%)マダイ1尾(7.70%)である。

3回目はN20°-02'E 113°-58'を中心に周囲2海里以内には範囲は狭いが好漁場の形成された海域がある。漁場水深は200~300mで、操業14回実施し、釣獲率は最高8.42%最低1.20%平均4.50%を示している。魚種組成はハチジョウアカムツ214尾で(50%)ハマダイ175尾(40.88%)その他39尾(9.10%)であった。なお当漁場はハチジョウアカムツとハマダイが主体となっているが両者とも中型魚の粒揃いであり、最多漁獲水深は210~250mの陸棚斜面にあった。

### 第3次試験

今次航海は沖縄島の沿近海域における曾根探索が主体であったため海図に記載されている(浅い水深が報告されている)未確認曾根の確認調査と新漁場の開発調査を実施した。

### 調査の結果

久高島東方およそ15.5海里N26°-57'E 128°-10.4'の地点に (18) Re pd と図示さ

られているが同地点を中心に約10km四方を調査したが、この様な浅所は全く発見出来なかった。  
この一帯の水深は900~1300mあって久高島方向へ極くゆるやかな傾斜で浅くなり島柵につ  
ながっている。

伊江島北西方およそ17.4海里N 26°-54.8'E 127°-30.2'と同15.5海里N 26°-49.6'  
E 127°-29.2'には海図上の記載水深 106 Repd と 91 Repd が隣接して報告されてい  
るが両地点を中心にそれぞれ10km四方に亘って調査したが実測水深は580mから1,000mあ  
って、どちらも浅所は確認出来なかった。

伊平屋島から西方およそ26海里N 27°-04.5'E 127°-28.2'附近に水深335m~375m  
の曾根が発見された。当曾根の周囲は1,000m以上もある深海部であることから、この浅い海域  
には魚群探知機にも魚群らしき反応が出ており、新曾根の可能性もあるが今回は漁獲試験は実施さ  
れておらず早い時期に曾根上の生物調査を実施して、その実態を究明したい。

（調査船名） 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日

（調査船名） 昭和三十八年三月二十一日

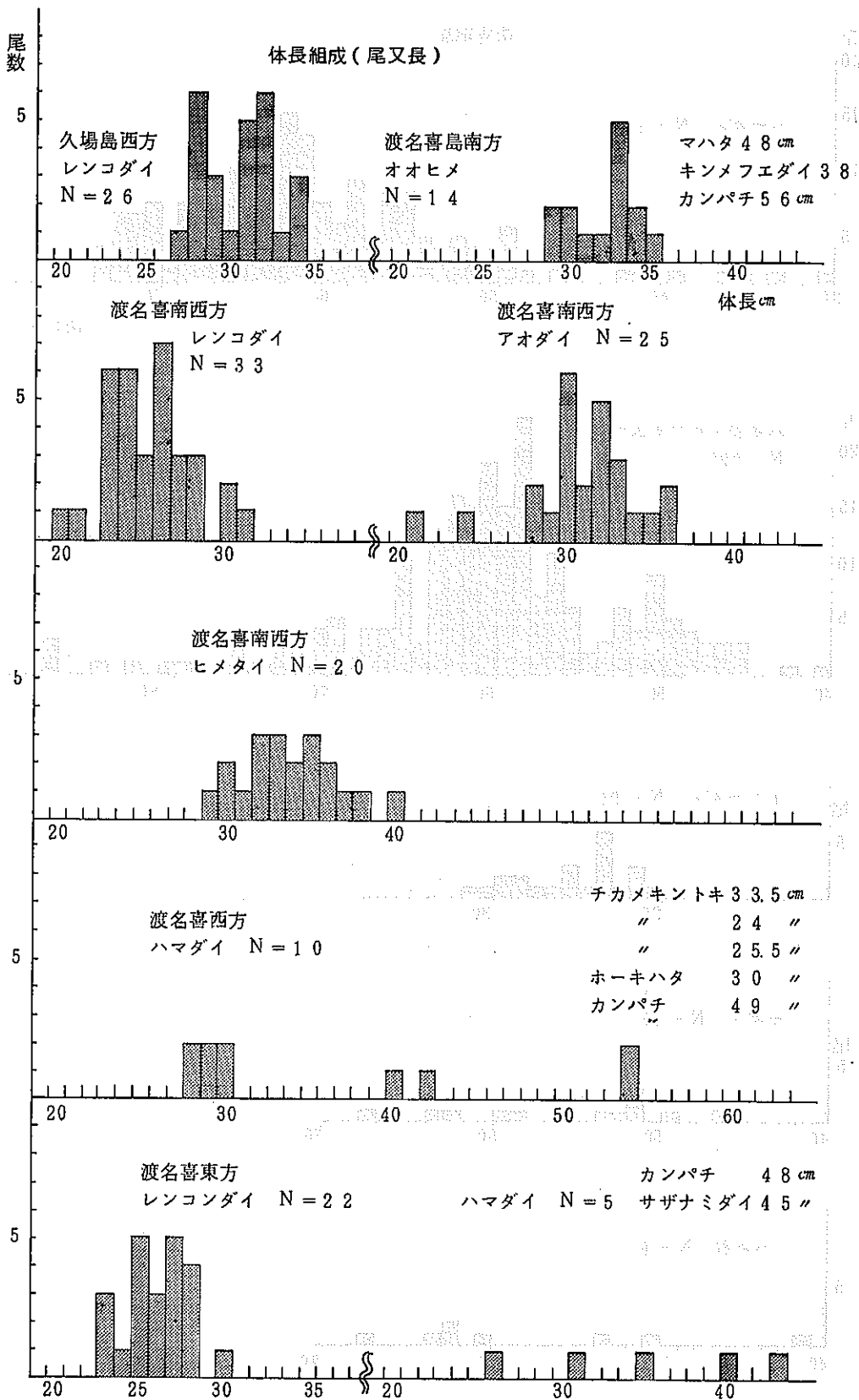
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日

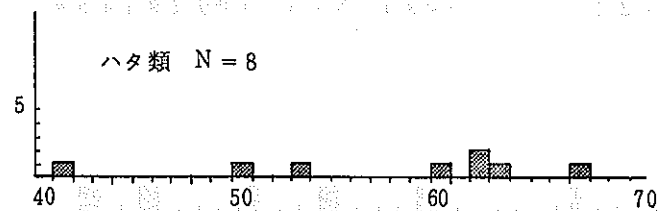
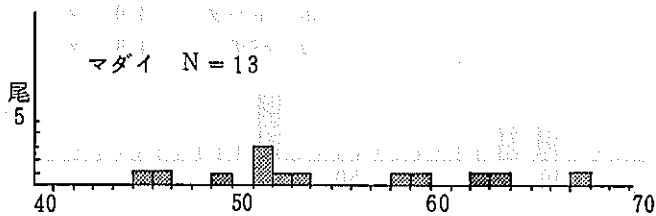
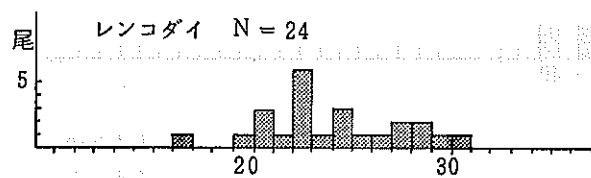
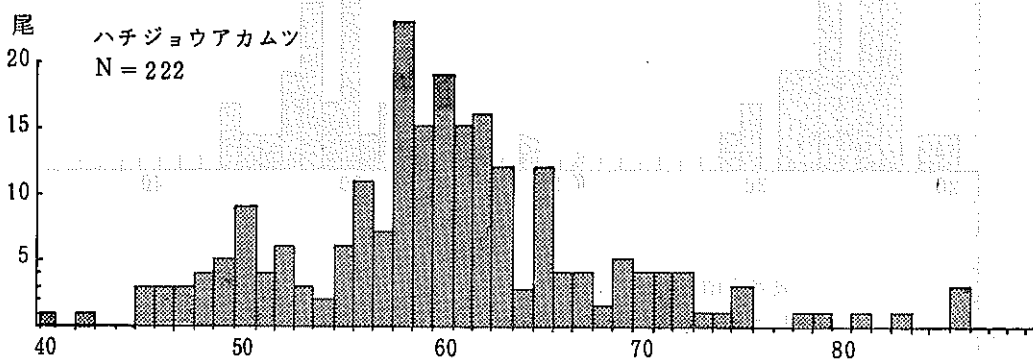
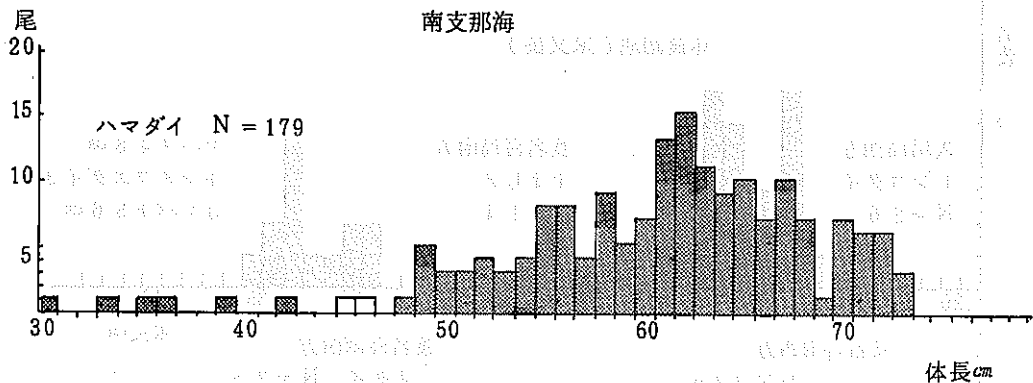
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日

昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日

昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日

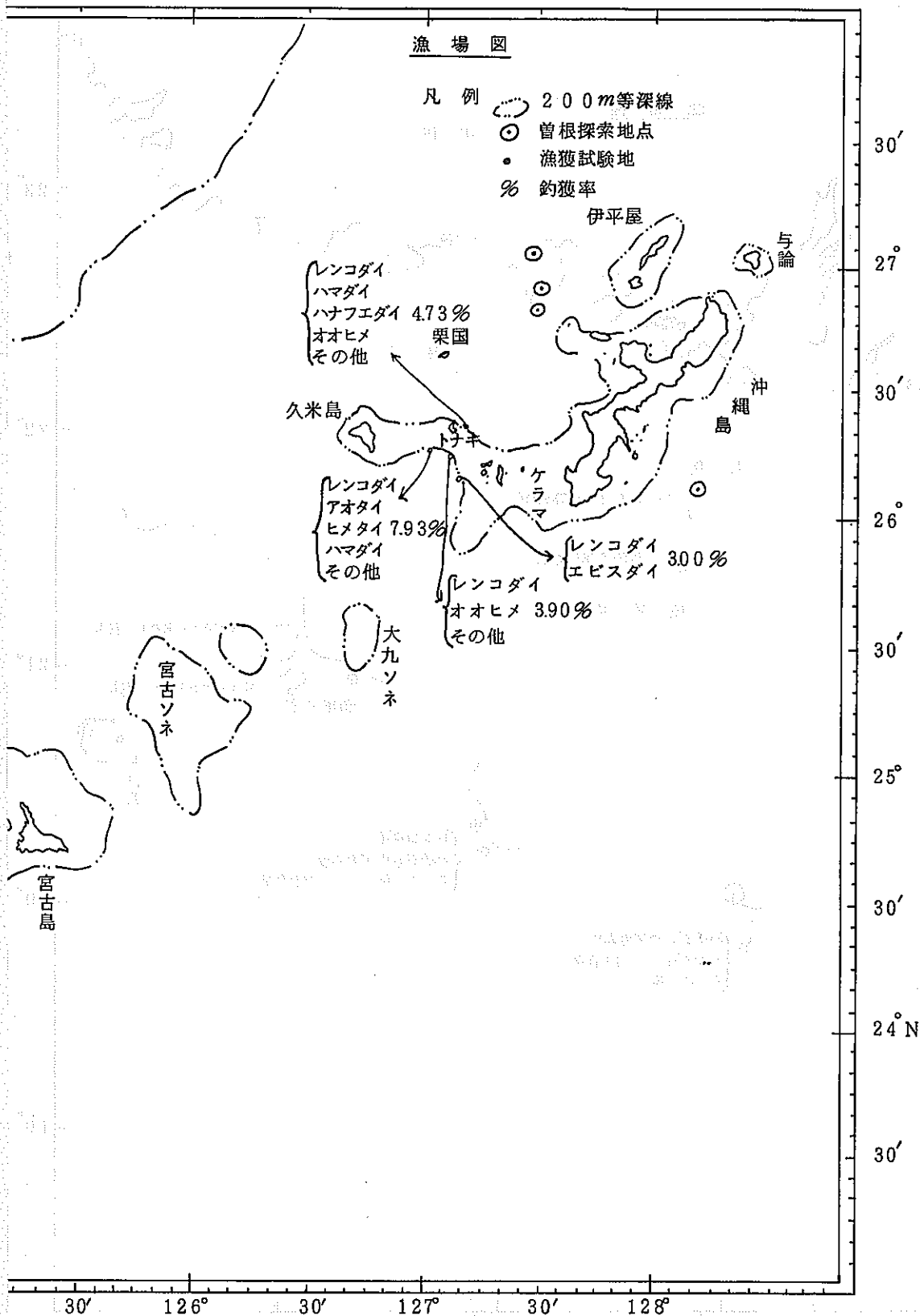
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日  
昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日 昭和三十八年三月二十一日





漁場図

- 凡例
- 200m等深線
  - 首根探索地点
  - 漁獲試験地
  - % 釣獲率



30' 126° 30' 127° 30' 128°

30'  
27°  
30'  
26°  
30'  
25°  
30'  
24°N  
30'

